

# フードバンクを活用した食品ロス削減啓発事業

フードバンク推進実行委員会  
(特定非営利活動法人フードバンク福岡、福岡市環境局事業系ごみ減量推進課)

## 1 共働のきっかけ・必要性

フードバンクは、品質に問題がないにもかかわらず市場で流通できなくなった食品（いわゆる、「食品ロス」）を集め、食べ物を必要とする施設や団体へ無償配布する活動であり、食品ロス削減という環境的側面の問題と、福祉的側面の問題を同時に解決できる活動として期待されています。

### (1) NPOが事業を提案した理由

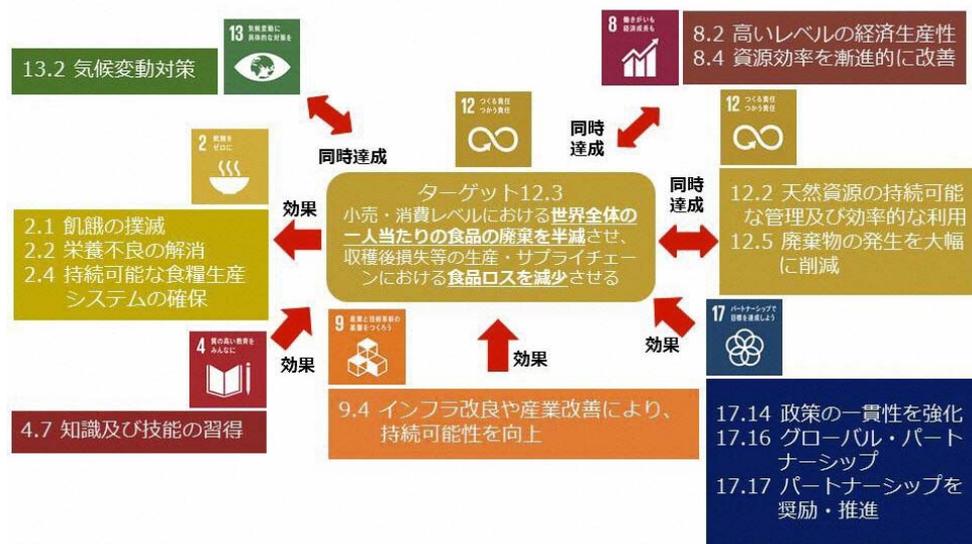
食品ロス削減は、SDGsのターゲットとしても挙げられる世界的課題であり、福岡市の課題でもあります。その一方で、食べ物を必要としている人たちが増え、特に子どもの相対的貧困は大きな社会課題となっています。

そうした中、フードバンクが注目を集めるようになりました。しかしながら、日本全体のフードバンクが取り扱う食品量は年間4,000トンであり、日本の食品ロス全体量（年間612万トン※）の0.07%にしすぎません。また、福岡市でのフードバンク活動は平成28年度に開始したばかりで間もなく認知度が低いため、市民や市内企業への普及・啓発による活動の定着と拡大が必要です。

共働事業により、フードバンクを活用した食品ロス削減に前向きに取り組む事業者が増え、多種多様な食品の提供を受けることができるようになるとともに、市民意識の醸成にもつながりボランティア参加や企業からの寄付が得やすくなることが期待できます。

また、フードバンクが福岡市の循環型社会の一部として有効に機能することで福岡市の課題でもある食品ロス削減を推進することができると考え、提案に至りました。

※農林水産省平成29年度推計



出典：農林水産省ホームページ ([http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/](http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/))

### (2) 市担当課が事業に取り組む理由

福岡市において、事業系ごみの量は全体の半分を占め、その減量・リサイクルが重要な課題となっています。フードバンク活動の推進に取り組むことで、事業所から排出される食品ロスが削減できることを期待しています。

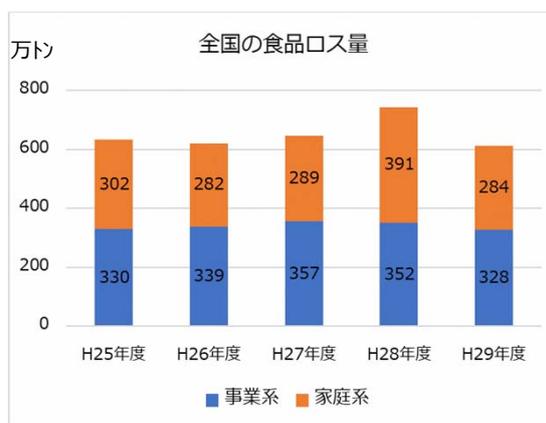
## 2 事業の目的

フードバンクには、事業者からの提供（フードバンク）と家庭からの提供（フードドライブ）の2通りの食品提供ルートがあります。

家庭からの食品提供では、保存状態が様々であるため保管方法による影響が少ない缶詰等、食品の種類が限られ、また、1提供者あたりの提供量が少なくなります。一方で、事業者からの食品提供では、それまでの衛生管理状態が把握しやすく、安定した品質が期待できることから生鮮食品をはじめ多種多様な食品を提供いただけるとともに、1提供者あたりの提供量は多くなります。

また、全国的に家庭内で発生する食品ロス量と事業所から発生する食品ロス量は約半数であり、近年横ばい傾向で減少していない状況です。

これらのことから、食品ロスの削減による循環型社会づくりの推進及び、安定的食品提供量確保のため、事業所から発生する食品ロスを対象にフードバンク活用の啓発を実施することとしました。



(農林水産省推計値より作成)

## 3 事業目標及び達成度

1) 令和元年度は、食品関連企業（以下企業）へのアンケート調査により、フードバンク活動及びフードバンク福岡の広報と同時に、フードバンク活用に向けて企業が抱える課題の把握を図りました。その結果、企業はフードバンク活動に対する知識不足、対応人員の不足、食品取扱への不安といった課題があるものの、フードバンク活動による地域社会貢献に高い関心があることがわかりました。また、受取団体の様子やニーズを企業へ伝えることが、フードバンク活動へ協力する企業の拡大につながることもわかりました。

加えて、令和元年度に施行された食品ロス削減推進法の影響から、今後は各企業における食品ロス発生抑制が更に働くことが予測されるため、更なる食品提供企業の拡充が必要です。

そこで、令和2年度は、①食品提供量の定量確保のため、企業に対してヒアリングや説明会を実施し、新規開拓や継続提供促進を図るとともに、②食品受取団体の需要（量・種類など）や、スムーズな受け渡しを目指したアンケート調査を行い、受取に関するオペレーションの点検を行います。①、②により把握した課題を整理し、効果的なフードバンク活動普及啓発のための③アクション・プラン作成に向けた分析を行います。

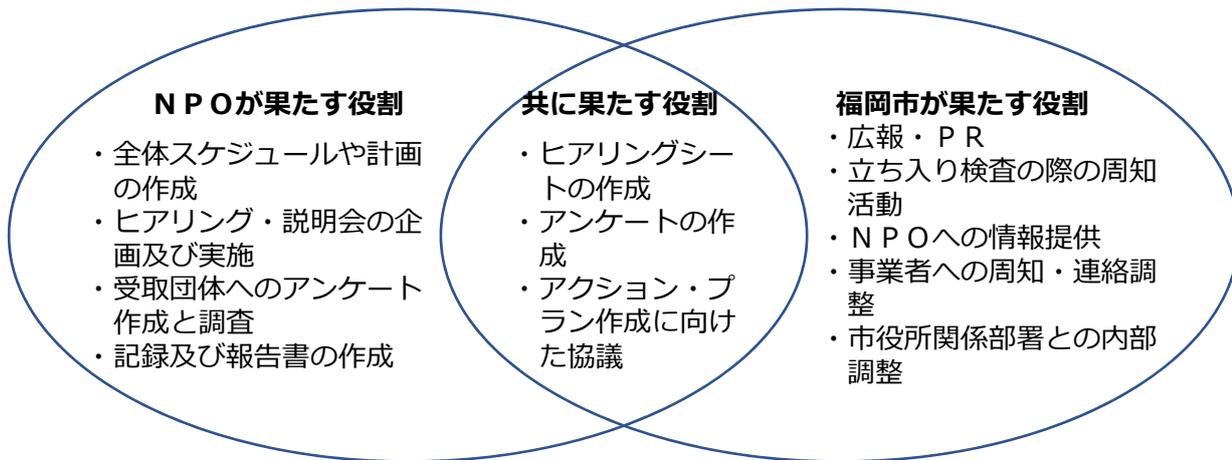
(※アクション・プランとは、食品提供企業の新規開拓や継続提供促進をはかるための普及・啓発の方法や広報戦略、広報物に加え、フードバンク活動が持続可能であるために必要とされる活動資金やその調達方法について、フードバンクが実施する具体的な行動計画です。)

2) 定量的目標として、フードバンク福岡の食品取扱量増加及び、食品を提供する企業数の増加を目指します。

|         | 平成29年度<br>実績 | 平成30年度<br>実績 | 令和元年度<br>実績 | 令和2年度<br>実績※ |
|---------|--------------|--------------|-------------|--------------|
| 食品ロス削減量 | 44t          | 74t          | 85.7 t      | 64.2 t       |
| 食品提供企業数 | 63社          | 89社          | 116社        | 139社         |

※は、令和2年8月末現在の数値

## 4 役割分担



## 5 事業内容

### 事業内容（1）食品受取団体のに関するアンケート調査・分析、受取に関するオペレーションの点検

フードバンク福岡と合意書を結んでいる食品受取団体を対象にフードバンク活用に関するアンケートを行い、需要（量・種類など）や、スムーズな受け渡しに関する調査・分析を行い、受取に関するオペレーションの点検を行う。

#### ①アンケート調査の作成・発送

期間：令和2年5月～7月に作成、7月23日発送

調査対象数：130件

内容：受取団体に対し、活動の様子、現在受け取っている食品、受取をさらに希望する食品、フードバンク活動の改善点、企業に対する意見などを調査しました。

アンケートは、各団体の実情に沿った回答を得るため、自由記載を多く取り入れました。

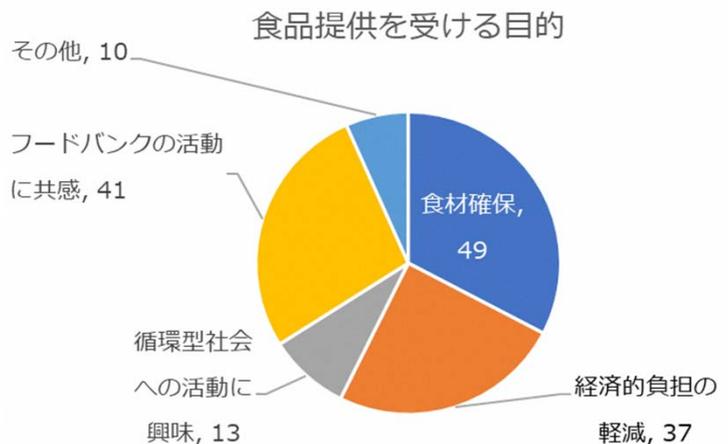
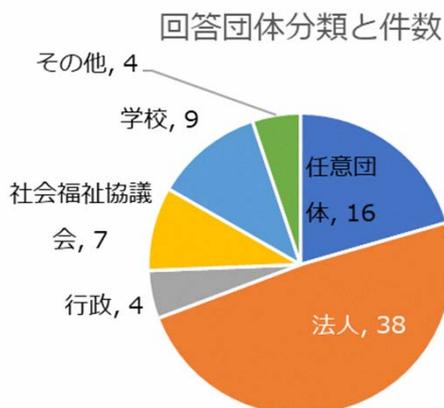


送付したアンケート

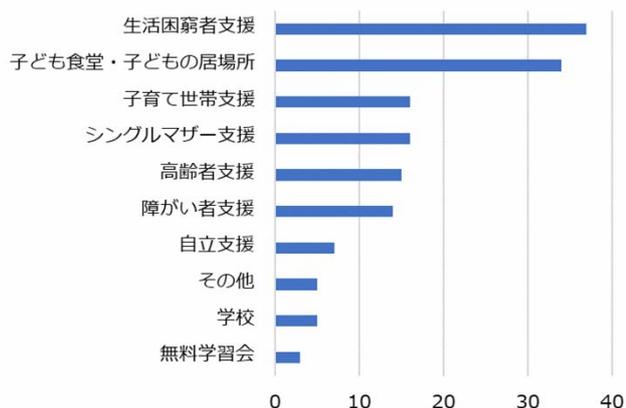
#### ②アンケート集計（速報）

期間：令和2年8月～9月

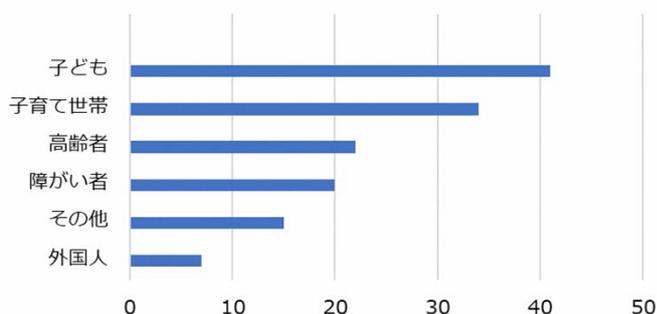
【集計結果概要】（回答数：78）



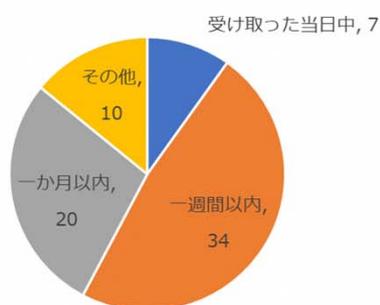
食品の活用目的



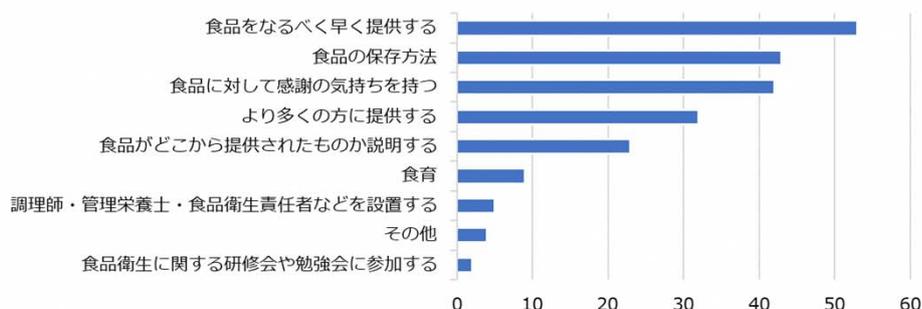
食品を提供する対象



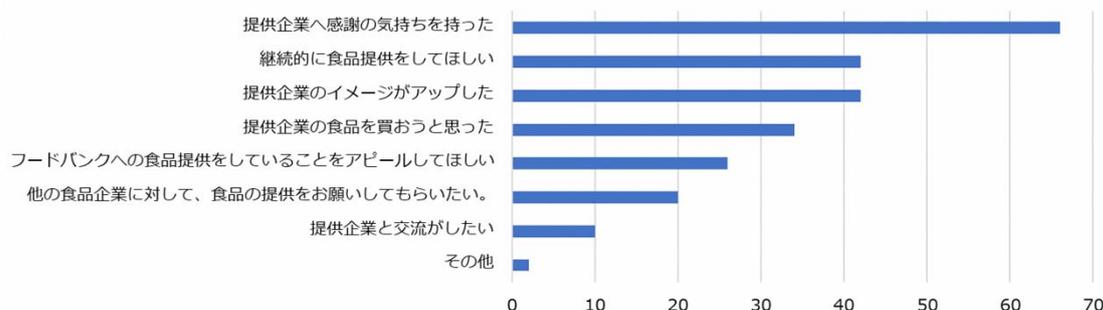
受取食品の消費日数



食品を受け取るにあたり気をつけていること



食品を提供する企業について考えていること



**【アンケート集計 速報の印象】**

昨年企業に対しアンケートをした結果、「提供先が保管するときの衛生管理に不安がある (33.3%)」「自社ブランドが傷つくのではないかと不安がある (34.7%)」という回答があったため、食品の受取団体の質問項目に反映し、実態を調査しました。

アンケートの結果、受取団体は、いただいた食品はなるべく早く使い切る、保存方法に気を付ける、大切に最後まで使い切るという気持ちを持っていることがわかり、企業がもつ不安に対する回答を得ることができました。また食品を提供してくれる企業へも、深い感謝の念を持ち、親しみを感じていることが分かりました。

一方で、受取団体は、子どもや子育て世帯の方、高齢者、障がい者などの受益者のために、誠意をもって活動をしているものの、資金や人的資源に余裕がない状況がうかがえました。フードバンクからの食品が福祉的な重要性を持つこと、受益者のためにも受取団体の負担を軽減する必要があることが感じられました。

今後はアンケートの分析を進め、需給バランスや理想的な配送へのオペレーションの課題の洗い出しを行います。

### ③受取に関するオペレーションの点検

期間：令和2年10月～12月

内容：アンケート調査に基づき、食品受取団体に関するオペレーションの点検・課題の洗い出し・整理を行う。

目標：12月完成

### 事業内容（2）食品関連企業へ、フードバンクに関するヒアリングや説明会の実施

期間：令和2年9月～令和3年2月

内容：令和元年度に実施したアンケート調査をもとに、食品提供企業の新規開拓や継続提供促進のため、対面によるヒアリング・説明会を実施する。

- ・ヒアリングでは、ヒアリングシートを使い、企業の食品ロス発生状況、フードバンク活用の課題などの情報収集を行う。
- ・説明会では、「フードバンク活用の手引」「説明会資料」を用いて、フードバンクへの理解と企業の懸念解決により、食品提供を促す。
- ・企業ヒアリング・説明会のため、各資料、広報物（チラシ・パネル等）を作成  
※ただし、新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し、慎重に行う。

### 事業内容（3）アクション・プラン作成に向けた分析

期間：令和3年1月～3月

内容：事業内容（1）、（2）により把握した課題を整理し、アクション・プラン作成に向けた分析を行う。

- 項目
- 1) 食品の受け渡しインフラの整備  
(開所の頻度/受渡拠点場所/ルート集荷・配送/倉庫)  
令和3年度、検討予定。
  - 2) フードバンク活動促進のために必要な普及・啓発活動  
(対食品提供企業/対食品受取団体)  
令和元年度～令和2年度の調査結果を分析し、必要とされる方法をまとめる。
  - 3) フードバンク活動継続のための資金運用  
(資金獲得方法と予算/将来への展望)  
過去の資金獲得方法と事業規模などを分析し、今後必要とされる資金調達  
の方向性を見直す。

## 6 担当者の声・市民の声

### (1) 市民の声（アンケート結果から抜粋）

- ・フードバンクの活動に敬意を表しています。また、よいものを提供して下さる企業様にも感謝です。賞味期限（に余裕）があると、より多くの生活困窮の方々、子どもたちへ配布できます。感謝！
- ・いつも大変お世話になり、ありがとうございます。毎週食品が届くことを利用者さんもとても楽しみにされ、活動も潤い助かっております。提携前は、食べ物もお金もない利用者さんの対応に、非常に苦慮しておりましたが、フードバンクさんのおかげで、そのような困りごとがなくなり、活動の中で提供している食事の幅も広がって、本当に感謝しております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

### (2) 担当者の声

- ・アンケート調査から、同じ市民活動をするものとして、たくさんの方々から誠意をもって活動をしていることが分かり、とても温かい気持ちになりました。連携してもっと暮らしやすい社会を作ることができればと思いました。
- ・今回食品受取団体に対するアンケートによって得られた情報は、食品の提供を躊躇している企業に対する広報・啓発に有効な情報であると考えます。

## 7 令和3年度への展開

令和元年度は、食品関連事業者を対象にフードバンク活用に関する調査・分析を行いました。令和2年度は、企業側の課題を解消するためのヒアリング・説明会と、食品受取団体へのアンケート調査から、食品受取に関する円滑なオペレーションと持続可能な活動へ向けての課題を整理し、アクション・プラン作成に向けた分析を行います。2年間の調査・分析を踏まえ、令和3年度では以下のとおり実施します。

### ■令和3年度事業

令和3年度事業は、本共働事業の最終年度であり、フードバンクを活用した事業系食品ロス削減へ向けての方策を完成させる年でもあります。引き続き食品提供企業の拡大を図るとともに、フードバンク活動を継続していくためのアクション・プランを完成させます。

#### 事業1 アクション・プランの完成（3年後・5年後のプラン）

- 項目
- ①インフラの整備
  - ②普及・啓発活動
  - ③活動継続のための資金運用

#### 事業2 食品受取インフラの検証

食品提供企業が食品寄贈に関して、検討課題としている食品の納品手段について、食品企業からの引き取りが可能な配送インフラを実験検証する。

- ・食品受取に関するオペレーションを検証する。
- ・配送効率の適正化を検証
- ・目指す方向性を確認する。
- ・アクション・プランへの反映

#### 事業3 フードバンク活用説明会開催

フードバンク活用説明会を開催し、アクション・プランの説明と3年間の事業報告を行い、食品提供企業の拡充を図る。

#### （共働の必要性）

- ・福岡市から企業の情報・現状や法令等の情報を受け取りながら、全体の進行をすることができます。
- ・福岡市と共働による調査であることから、企業の担当者だけでなく、企業全体で取り組む課題として認識されやすくなります。
- ・福岡市の課題でもある食品ロス削減を推進することができます。